

上宮津公民館だより

第74号
令和3年
3月発行

機能不全に陥った公民館活動

新型コロナウイルス感染症拡大から一年

公民館長 智原 芳明

今年度の公民館活動は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、年間を通して公民館事業のほとんどを中止せざるを得ない状況に追い込まれてしまいました。目に見えないウイルスとの戦いは依然として終息の目途がつかず、来年度の活動にも影響が出るのではと危惧をしているところです。

ソーシャルディスタンス、三密防止などこれまでに耳にしたことがない言葉も今では日常用語になりました。

公民館行事は人の出会いや繋がりを抜きに行うことはできませんが、この状況下

実施に向けては今しばらくの猶予をいただきたいと思えます。

新型コロナウイルスの全国的な感染拡大を受けて上宮津地区公民館は、昨年2月末から全館の使用制限や利用時間短縮の措置をしながら一年余りが経過しました。

その間、公民館の利用にあたっては検温、マスクの着用、手の消毒に加え、感染ルートへの追跡資料とするための利用簿への記名など多くのことに協力いただいてきたところです。

幸いにも今年の三月に入り感染者数が減少傾向にあるこ

とから利用時間の制限は解除されました。しかしながら、その他については依然として規制は継続しています。

飛沫感染予防のために調理室の使用や食事を伴う会議の利用は引き続きお断りしています。

また最近になり公民館の定員算出基準が変更になりました。ソーシャルディスタンス（人と人の快適な間隔）確保が目的で感染防止の基準とするものです。

これによりますと公民館の各部屋の定員は、椅子を置かない部屋にあつては一人当たり三平方メートルの床面積を確保することが必要となり、ほぼ一坪、畳二枚分を要することになります。

感染予防に配慮したことであると思いますが、これにより容積不足が生じ収容人数が少なくなる事態も予想されま

す。

将来的には新型コロナウイルスに対する医療も進歩して感染が抑

えられる日が来ると信じたいところではありますが、当面は「ウイズコロナ」社会で生活していかなければならない状況は続くものと思います。

今後の公民館事業を行う上で感染リスク対策を皆様にご協力をお願いすることがあります。集い、語り、繋がる」の合言葉で公民館活動できる日が一日も早く戻ることを願うところです。